



大阪大学医学部から誕生

オプションリスク判定

遺伝的体質から追加疾患のリスクを予測

「生活習慣病予防プログラム」「がん遺伝子検査」「心筋梗塞・脳梗塞リスク判定」「肌老化予防プログラム」にオプション項目として【追加選択】していただけるようになりました。

※オプション検査単体ではお申込いただけません。新規/後日いずれの申込であっても、オプション検査をご希望の場合は、必ずメイン検査より一つ以上選択し、セットでお申込ください。

※2018年9月以降にサインポストの遺伝子検査を受診された方は追加の検体採取は不要です。

オプション8項目のご紹介

※オプションのみの申込は出来ません。

- 「更年期障害」(※男性は「ED」)**
 症状の強さと対処法を知りたい方におすすめです
- 「筋力低下(ロコモ)」**
 筋力の低下しやすさと対処法がわかります
 足腰の衰えを感じている人におすすめです
- 「非アルコール性脂肪性肝疾患」**
 アルコールを原因としない肝臓障害のなりやすさを判定します
 非アルコール性の脂肪肝も多いので、アルコールを飲まない人にも大切な検査です
- 「近視」**
 近視のなりやすさと対処法がわかります
 普段、目を酷使していると感じている方におすすめです
- 「もの忘れ(アルツハイマー型認知症)」**
 アルツハイマー型認知症や脳血管性認知症の進みややすさと対処法がわかります
- 「関節症」**
 関節症の進みややすさと対処法がわかります
 関節に痛みや不安を感じる方におすすめです
- 「喫煙(副流煙)」**
 喫煙による影響の受けやすさと対処法がわかります
 家族やご自身で禁煙を考えておられる方におすすめです

報告レポートイメージ

更年期障害

リスク1 (弱い)

日本 花子 様の更年期障害に関する遺伝的リスク度は、合計数= 1 個です。
遺伝的には更年期障害になりにくい体質です。

◆更年期障害関連遺伝子の測定結果

遺伝子のリスク度	測定遺伝子	遺伝子多型の特徴	遺伝子多型日本人保有率
🍏	Adiponectin	アディポネクチンの産生が低下し、更年期症状が出やすくなる。	7%
🍏	PPARG1C2	インスリンの働きが悪くなり、更年期症状が出やすくなる。	31%
🍏	GCLM	血管内の酸化ストレスが高まり、更年期症状が出やすくなる。	70%
🍏	ACE2	血管が拡張しやすくなり、更年期症状が出やすくなる。	46%

◆遺伝子からおすすめの生活習慣

🍏 栄養成分: ビタミンE, 大豆イソフラボン

🍏 ライフスタイル: ヨガ, リラックス, 有酸素運動

◆更年期障害に関するアドバイス

更年期障害はエストロゲンの分泌低下で起こります
 女性ホルモンのひとつ「エストロゲン」の分泌量は30代半ばにピークを迎え、以降卵巣機能が低下するに従って、徐々に減っていき、40代半ばからは急激に減少します。
 この突然の変化に体がついていけず起こるのが「更年期障害」と呼ばれる更年期における様々な不快な症状です。

最近、30代から40代半ばの女性でも、生理不順になったり、月経が無くならない、女性ホルモンの分泌が乱れている人が急増しています。これは、ストレスや無理なダイエット、不規則な生活などにより、早いうちから徐々に卵巣機能が低下してしまったことが原因と考えられています。このような状態になると、ほてりや手足の冷え、めまい、落ち込みなど更年期障害に似た症状が見られるようになります。このように更年期に起こる様々な症状が「若年性更年期障害」と呼ばれているものです。

ヨガが更年期症状を改善
 酸化血管が拡張しやすい「ACE2遺伝子」を保有しています。更年期障害の方は、ホットフラッシュ(ほてりやのぼせ)などの血管関連の症状がでやすくなります。
 ヨガは自律神経機能を高め、更年期障害の症状の緩和のためにおすすめです。

閉経後の女性は生活習慣病になりやすい!
 女性ホルモンの「エストロゲン」には、動脈硬化を予防し、善玉コレステロールを増やして悪玉コレステロールを減らす作用があります。さらに血糖値を上昇りにくくする働きもあります。これがなくなった閉経後の女性は、生活習慣病リスクが非常に高まると言えます。
 また20~30代では、女性のほうが男性よりも肥満の確率が低いのですが、中年以降は差が徐々になくなっていき、60歳を超えたと同時に女性のほうが多くなるとも言われます。ですから色々な意味で、閉経後の女性は生活習慣病に気をつける必要があります。

疾患のリスクをグラフで表示

あなたの保有遺伝子のリスク度と日本人保有率を表示

疾患の原因と症状をわかりやすく説明

遺伝子から推奨される栄養素とライフスタイルをアドバイス